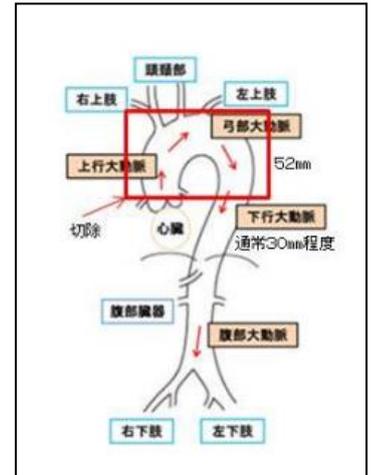


大動脈瘤の手術から2年

1. 大動脈瘤の手術

右掲は2年前の [Vol.822\('22年10月15日\)号](#)に掲載した手術の概要図です。2年前の10月17日に6時間、18日に2時間の手術でした。□で囲った大動脈が通常は30ミリほどですが52mmほどに肥大して瘤の状態になっていたのです。発見されたのはその6年半前の健康診断でした。レントゲン撮影で「大動脈瘤の疑い」と指摘されて、かかりつけの奥野病院でCT確認をとり主治医が大阪警察病院を紹介してくれました。自覚症状がないので経過観察となり、半年毎に診察に通っていたのです。ところが、その間に4人担当医が変わり、8月の経過観察の時に「毎年1mmずつ大きくなっている」と言われ手術を促されたのですが、心の準備が出来なかったので次回と言ったら「1ヵ月後」と返ってきたのです。ちょっとショックを受けて帰宅途中に近所の喫茶店でモーニングを食べに入り、心配したママから訊かれたので「手術とちょっと驚かされて今度は来月再検査と言われた」と話しました。実際、手術は初日6時間翌日2時間の大手術でICUで昏睡状態なので避けたい気持ちで一杯でしたが、丁度、居合わせた近所の方が「天の声かも」という話があり、少し気分が変わりました。



胸部を切開して心臓を取り出し大動脈だけではなく、右と左の上肢と頭頸部への動脈が切除するので人工心肺の世話が必要になるものです。□の部分を変えて人工血管に変えるのですが、大動脈だけでなく、両上肢と頭頸部の動脈との結合が必要になります。私は麻酔をかけられて1日半眠っていたのです。初日の夕方に一度目を覚まして、心配そうに覗き込んでいる三男を確認して、すぐに麻酔で眠りました。2日間の手術の後、ICUで5日間、その後、一般病棟で7日間過ごして退院したのです。

2. 術後の三重苦(目眩・便秘・湿疹)

予定通り10月末に退院して、その日、お客様とのZOOM月末会議に参加しました。ここまでは想定通りでしたが、明るる日、三男にクルマで事務所に送ってもらったが、降りた途端に目眩がして歩けなくなりました。幸い、目の前に包括支援センターがありクルマ椅子を借りることができて事務所に辿り着いたという事態になったのです。どうやら起立性低血圧だったようですが、以後、突然、目眩に襲われることが起こるようになりました。物が2重に見えたり、景色がグルグル回るとい現象です。当初は不安になりましたが、少し安静にしていると落ち着くことがわかりましたので対処ができました。

次に襲ってきたのは便秘です。入院中に2~3日排便がないことが起こり薬を頂いたのですが、この現象が続きました。私自身、当時、73才で高齢者だったので老人性便秘の兆候があったのですが、顕著になったのです。排便は薬を頂いたので可能ですが、2年経過して薬なしでも通常の排便が可能になって来ました。

その次に襲ったのが指先に湿疹が出るようになったのです。11月末頃でした。異常に気付いて皮膚科に行ったのですが、塗り薬を頂くだけでした。しかし、翌年5月位から足のすねに赤い湿疹が出るようになり、かなり広範囲に広がったのです。この頃に、大阪警察病院の管理から主治医のいる病院に変わり、7月末に発熱して内科を受診した際に内科の先生がアレルギー症状と診断してくれて、アレルギーの薬と塗り薬を出してくれたのです。2ヵ月ほど経過した10月には赤い湿疹は治まり、少しマシになりました。しかし、現在も完全には治っておらず、痒みが出たり、新しい湿疹が出たりしました。

まさに「目眩・便秘・湿疹」の3重苦が、程度は軽くなったが今も引きずっています。

3. 体力の回復

手術前は体重74kg程度だったのですが、退院時は68kgほどになっていました。入院時も食事は完食していましたので、手術による減量だと思います。マイナス6kgなので起立性低血圧を起こしやすくなっていたのと同時に免疫力の低下が起こりアレルギー性の湿疹を起こしたと思っています。まず、体重ですが、なかなか元に戻らなかったです。地域の方々も急激な減量だったので心配してくれたようですが、1年半ほど経過して、ようやく元に戻ったという具合です。

一方、よく眠るようになりました。昼食後も約1時間、晩御飯を済ませてTVで野球観戦ではソファで横になっている所為もあって、2時間ほど「うたた寝」するようになっていました。この結果、NHKの9時のニュースは半分も見ず、入浴後、朝日の報道ステーションを見ながらリラックスした後に就寝するようになりました。この結果、合計の就寝時間は8時間ほどですが、小刻みになっているのが現状です。私は午後6時頃に夕飯を済ませ、その後は間食しないので朝6時頃まで「半日断食」の状態です。そして、長年の習慣ですが、妻が10年前に先立ったので自炊しています。朝6時にパンを1枚頂き、7時半頃に喫茶店で地域の方々ともモーニングを頂いており、朝2回の食事、そして、昼は自宅に帰って自炊で「うどん」「そば」「焼きそば」をローテーションしています。その後、6時頃に自炊で「ごはん」を頂くので、朝のパン・昼は麺類・晩はごはんのパターンを繰り返しています。

また、体力の回復という面では消化力の衰えが出てきています。私は75才ですが、結構、油ものを頂く方なのです。ある日、胃の裏が痛くなり臍臓かと思い内科の先生に相談すると消化薬を出してくれたのです。お蔭で胃の裏の痛みはなくなりました。

しかし、7月22日に突如「座骨神経痛」が起こり、3日ほど杖を頼りに歩きました。これは、ストレッチなどの効果があったのか、最近では足の痺れは出なくなって、ありがたい事にほぼ意識から外れています。このまま、自然治癒して欲しいと思っています。

4. 術後2年の反省

外科の先生は「100%成功」と傷のことを言いますが、「100%回復」には程遠い状況です。大動脈瘤の原因になった高血圧ですが、手術前に血圧が130以下で動脈瘤も大きくなっていなかったのです。「天の声」をキッカケに「百歳現役を目指すなら、若い内に手術」と覚悟を決めたのです。お蔭様で血圧もお薬を頂いていますが130以下と安定しており、大動脈瘤の再発の心配はない状態です。

このように、この2年間、例えば「目眩・便秘・湿疹」と闘って、ようやく何の意識もせずに過ごせるようになりました。大変ありがたい事です。今後への反省として「手術は出来る限り若いうちに、そして、可能ならしない方が得策」と思っています。外科は「100%成功」と言いますが、体力の消耗は大きいのです。この結果、免疫力が低下して次から次へと別の病気を引き出して入院を繰り返している方がいらっしゃるのです。私の場合、幸いにも高血圧の薬だけだったので、その後の状況でアレルギーの薬が増え、さらに消化薬や整腸剤を頂いていますが、基本的には別の病という心配は今のところない状態です。

高齢者は年々体力が低下するのでアンチ・エイジング対策が必要です。その状況下で、私の場合、6kg減の大手術で「目眩・便秘・湿疹」に悩まされたのです。お蔭様で徐々に体力が回復して3重苦はほぼ解消していますが、完治した訳ではないのでこれからも長い付き合いとなると覚悟しています。これらは、手術に関係ないかも知れず、加齢による衰えで出ていたかも知れない症状ですが、顕著に表れたのが術後だったのです。つまり、他の方が高齢になって手術されるなら持病をチェックする方が良いと思います。手術による体力減は免疫減であり、他の予備軍が現れて手術の入退院を繰り返す危険性があると忠告したいと思っています。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryu.html> にあります！】